

ICTで生まれる 新しい空間認識 (前編)

玉川大学教育学部
准教授 濱田英毅

前編 ICTの活用で育まれる 地理歴史の「新しい空間認識」

社会科・地理歴史科の教員養成に
ICTと空間認識がどのように関わるのか

目標

臨場感ある語りができるよう
空間認識（構造認識）力を鍛える

- ⇒ 電子版歴史マンガによる
ストーリー編集と構造化の学び
- ⇒ 修学旅行の学びを意識した
地域学習デジタルアーカイブの制作

臨場感

実際その場に身を置いている
かのような感じ

= 空間認識（構造の把握）を
した時に可能となる

空間認識（構造の把握）に取り組む 具体的な方向性

- ① 空間の横の広がりを意識
- ② 空間の奥行を意識

① 空間の横の広がりを意識



John Gast: American Progress

(目に見える)
そこで何が
起きているのか
⇒ VTS



既存のストーリーに
負けない、自分なり
のストーリーに**再編
集（短編化）**する

※大量の情報処理の訓練

電子版歴史マンガの活用

知識の構造化

※「線」が多いのは、**ストーリー展
開での理解**に努めたため



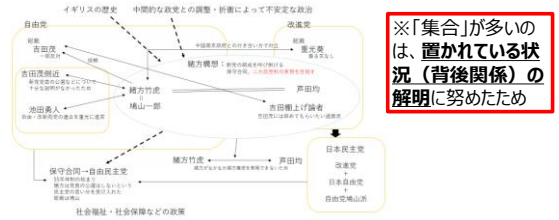
② 空間の奥行を意識



**背後（背景）で何が
起きているのか**

「緒方竹虎」近代日本人の肖像（国立国会図書館）

「歴史の構造図」を作成する訓練



地域学習デジタルアーカイブの制作

: 情報の取材と編集



現場で**臨場感**を
肌で感じながら
ストーリーテリング
の実習



構造化の仕組み

イメージマップ



階層構造



導入段階の開発で
大きな手間がかかる
(あとは修正で済む)

複雑で大量の
情報処理に目覚めてゆく学生たち



今後、追究したい可能性
= **VR**の活用



自分で画角を選ぶ